

令和4年度 学校評価書

えびの市立真幸中学校

評価基準: 4, A(期待以上...8割以上) 3, B(ほぼ期待通り...5~8割) 2, C(期待を下回る...2~5割) 1, D(改善を要する...2割未満)

本年度の重点目標		評価項目	生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
未来につながる学力向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	生徒が主体的に取り組み、わかりやすい授業ができていますか。	3.1	3.0	2.8	○各種調査結果から、どの学年も個人差が大きく、学力の二極化がみられる。補充学習など個に応じた指導をさらに充実させていく必要がある。 ○ICT機器を効果的に活用する授業が増えてきている。 ○英検取得率(3年生)は、準2級(高校中級程度)が24%、3級(中学卒業程度)が26%と、国の目標(3級以上50%)に到達している。2年生でも準2級に10%以上の生徒が合格している。英検受験に対する市の補助と、「英語表現」の授業実践が影響していると考え。このことを、保護者に伝えていくことが課題である。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の目的は人格の形成にある。価値観等が多様化する今日、バランスのとれた生徒の育成は社会の要請でもある。計画的・継続的な指導が必要となる。 ・英検の取得率の高さに驚いた。 ・英検取得率に感謝します。 ・国際化に向け、英検の取得率向上は高く評価できる。 ・学力向上の鍵は基礎基本の定着化である。教師の人生観を通して、学ぶことの意義を理解させるための手法を提供することが必要である。
		個に応じた指導を意図的に行っていますか。	3.3	2.9	3.0				
		授業で効果的にICT機器を活用していますか。	3.1		3.0				
		教育課程特例校による「英語表現」の授業実践が、外国語能力の向上につながっていると思いますか。	3.0	2.9	3.3				
	各種テストの積極的な活用による基礎・基本の徹底	小テストや単元末テスト等により学びの確認を行っていますか。	3.2		2.8	○昨年度よりも、単元末テスト等による学びの確認を実施する教科が増えてきている。学力定着のためにも、スモールステップでの評価を実施していく。定期テストの在り方も検討していく。 ○テストの結果分析をもとに、落ち込んだ内容を補充するような取り組みを行っている。 ○定期テスト前の学習の取り組みについて課題があるので、学校での手立て、及び、家庭への啓発を講じたい。	B	B (3.0)	
		定期テスト前に生徒が計画的に学習に取り組むような手立てはできていますか。	3.1	2.8	3.1				
		定期テストや各種テストの分析を行い、落ち込んでいる内容の補充を行っていますか。	2.9		3.1				
	小学校と連携した学習習慣の定着や一貫性のある学力向上策の推進	小中合同研修会を通して、小中連携した一貫性のある学力向上に取り組んでいますか。		2.7	2.6	○計画的な小中合同研修会や授業研究会を実施している。回数は少ないが、内容を充実するように努力している。今年度は道徳の授業公開を行った。 ○養護教諭や特別支援教育担当を中心に、気になる情報があれば、小中学校で共有して対応を行っている。 ○「知・徳・体」部会の取組を工夫・改善していきたい。	C	B	
		小学校との情報交換を日常的に行い、生徒理解や生徒指導に生かしていますか。			2.3				
対話を意識した心の教育	多面的で総合的な生徒理解に基づいた積極的な生徒指導	多面的・総合的な情報による生徒理解が行われていますか。	3.0	3.1	3.0	○毎週水曜日に生徒理解の時間を設定し、生徒の気になる情報を共有している。 ○スクールカウンセラーとの面談を計画し、悩みを抱えた生徒や保護者との相談の場を設定した。昨年度よりも大幅に相談件数が増えた。 ○学校での対応に対する家庭への報告をもう少し密に行っていきたい。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・この年代は多感な年頃で感受性に富むと言われる。よって、学校・家庭・地域社会が連携を密にした対応が重要となる。 ・今日の社会は多様な社会問題が多発している。生徒の心情も大きく揺れ動いていると思う。分別ある言動が実践できる指導が必要である。
		小さな予兆を見逃さず、積極的な生徒指導ができていますか。	2.9		3.1				
		家庭や関係機関と連携した生徒指導を行っていますか。		2.9	3.2				
	計画的で組織的な教育相談の実施による居心地のよい学校づくり	自他を思いやり、多様性を認め合う心が育成されていますか。	3.2	3.1	3.0	○年間2回の教育相談を特設し、相談を通して生徒理解を深めることができた。また、気になる生徒には随時相談を行った。 ○学習指導等支援教員を中心に、計画的な人権学習を実施している。 ○毎月1回、「学校生活に関するアンケート」を実施し、生徒の悩みの把握やいじめにつながる問題がないか把握している。 ○生徒の気になる情報に対して、職員個々ではなく学年や学年を超えたチームで対応している。	A	B (3.3)	
		生徒が居心地がよく、楽しいと思える学校づくりをしていますか。	3.0	3.1	3.2				
		いじめ、不登校、非行等に対して組織的な対応ができていますか。	3.4		3.2				
		いじめや不登校傾向を見逃さず、適切な対応を行っていますか。	3.5	3.0	3.1				

命を守る意識と健康教育	日常生活における運動習慣作りや部活動の充実による体力・運動能力の向上	生徒は、日常的な運動や部活動(社会体育を含む)を通して体力・運動能力の向上を図っていると思いますか。	3.2	3.1	2.9	○校内での部活動加入率が年々減少してきている。1年生は、社会体育に参加している生徒の方が多い。 ○本校は、大人数を要するチームスポーツの部活動であるため、部員不足により単独では試合に出られない部がある。今後も生徒数は減少するので、今後の対応を検討する必要がある。	B	B (3.4)	・生徒の減少に伴い、学校単位での部活動を維持することは厳しい状況にきている。社会体育への移行も考えるべきである。 ・部活動加入率の低下は、少ない生徒数のため、ある程度は仕方がないと思う。部の数を増やせない事情も分かる。 ・今後の部活動について、部員の人数減少や指導者(外部コーチ)の存在等、問題も多く、部活動自体の存続が心配されるところである。 ・携帯電話の取扱いが問題となっていると思います。今の所大きな問題は起きていないが、今後注意が必要であると思う。 ・昨今の自然災害は予想を上回る規模で発生している。自分の命は自分で守る意識を身につけさせる必要がある。 ・不審者対応の避難訓練は必要である。				
	計画的な防災教育や交通マナーの定着による命を守るための危機管理能力の向上	命を守る教育に関する学習を計画的かつ効果的に実施していますか。	3.7	2.5	3.0	○年間3回の避難訓練に加え、交通安全教室において安全指導を行った。 ○必要な場面で不審者への対応を随時確認し、同時に、職員で危機管理マニュアルの再確認を行った。 ○実際の場面で活用できる避難訓練へと工夫したい。 ○不審者対応の訓練を検討していく。	B		B (3.4)	・コロナ禍の3年間もようやく減少化も見えてきたが、この間学んだことは、基本的な生活習慣の重要性であったと思う。 ・感染対策が学校側も生徒たちにも徹底されており、クラスターに繋がることもなくよかった。 ・自転車通生のマナーやあいさつが素晴らしいです。			
		生徒は、自分の身を自分で守るような力が身についていると思いますか。	3.2	3.0	2.7		A						
	新しい生活様式を意識し、家庭と連携した、心身の健康を保持増進する取組	日常生活を営む上での基本的感染対策の実践がなされていると思いますか。	3.6	3.4	3.3	○消毒液の設置や換気など、基本的な感染対策を講じた。その結果、学級閉鎖などの対策を講じることはなかった。 ○ほとんどの生徒は規則正しく生活している。 ○携帯電話の使用に関して、夜遅くまで画面を開いているなどの課題がある。閉級式前の家庭教育学級では、宮崎県警に協力していただき、SNSの使い方などの講話を行った。	A				B (2.9)	・教員の多忙化が社会問題となって久しいが、教員自身に心身のゆとりがなければ、生徒とのコミュニケーションも取りにくく、教育効果も期待できない。業務の見直しが必要である。 ・時間外でがんばっておられる先生方には本当に頭が下がります。少しでも負担を減らして時間外をなくしていけるよう見直しが必要であると思いました。職員の身体や心労も心配。心や身体に余裕をもって生徒一人一人と向き合ってもらうためにも改善義務があると思います。 ・先生方の負担軽減に努めてほしい。 ・職員の負担が大変ですね。よりよい方法を望みます。 ・先生方はもう少し仕事を減らされて下さい。働き過ぎです。 ・情報化社会の今日、開かれた学校が問われる中、現状を発信することは不可欠である。	
		真幸中学校の生徒は規則正しい生活習慣が身についていると思いますか。	3.1	3.1	3.0		A						
	その他	働き方改革	部活動の活動時間や休養日の設定は適切であると思いますか。	3.1	3.2	3.3	○部活動の休養日については、どの部も基本的に守っている。 ○時間外業務の上限である45時間を半数以上の職員が超えており、中には100時間を超える職員もいる。基本的に専門教科を1人で全学級指導するので、教材研究の時間は1日1時間ほどである。授業以外の業務も年々増えている。業務のスリム化を図っていきたい。						C
業務内容を見直したり効率化を図ったりして、時間業務45時間以内を目指していますか。			3.3		2.4		C						
情報発信		学校での様子を学級通信やホームページなどで積極的に発信していますか。	2.6	3.0	2.9	○学校の様子は、ホームページを用いて定期的に発信している。 ○学級通信は、担任が定期的に発行している。	B						